

博修士会会報

Alumni Bulletin For K.U.Masters and Doctors 2010年7月1日発行

▲大学院ホール



ごあいさつ

関西大学博修士会会长 北嶋 弘一

関西大学博修士会会員の皆様におかれましては、ますますご清祥にて各地ならびに各界においてご活躍のこととお慶び申し上げます。平素より本会の運営に対しましては心温まるご助言をはじめ特別協力金のご寄付などを賜りまして厚く御礼申し上げます。

124年に及ぶ長い歴史を誇る関西大学にあって、博修士会は、昭和27年（1952年）に設立されて以後すでに58年の実績を持ち、修了生総数も16,000名を超える大所帯の組織として成長を遂げております。

関西大学大学院は、今や法学、文学、経済学、商学、社会学、外国語教育学、総合情報学、理工学、社会安全の9研究科、および法務、会計、心理学（心理臨床学専攻）の3専門職学位課程を有する日本有数の大学院に発展しております。

去る3月23日に千里山キャンパスのBIGホールで挙行されました学位（修士・専門職）記授与式では、576名の修士と144名の専門職を合せた720名の修了生、24名の博士、59名の後期課程単位修得者を本会に新たに迎えました。昨年9月18日の秋学期学位記授与式では8名の修士、19名の専門職、9名の後期課程単位修得者の36名と4名の博士を迎えております。昨年の秋学期と本年春学期に入学した12研究科977名のフレッシュな院生には、関西大学における学問・研究の中枢と

して今後の母校発展の一翼を担っていただくことを切に期待するものであります。

来る7月31日（土）には、本年4月に開設された高槻ミューズキャンパス「関西大学社会安全学部・大学院社会安全研究科」において平成22年度博修士会総会・学術講演会を開催いたします。昨年度の学術講演会では、山本化学工業株式会社の代表取締役社長 山本富造様に「バイオラバーとは！—高速水着から医療素材の開発まで—」と題した大変興味深いお話を伺いました。今年の学術講演会には、防災研究の分野では世界的な権威であり、社会安全学部長・同研究科長である河田恵昭先生をお招きいたしました。私どもの日々の生活にとってもっとも大切な安全・安心を学問の対象として教育・研究する意義と、その成果を実社会で応用・実践して災害や事故などのリスクをなくす方法についてお話ししていただきます。講演会終了後、高槻ミューズキャンパスの小・中・高等部および大学の施設見学会も行います。

会員の皆様には、公私にわたり大変ご多忙のこととは存じますが、万障お繰り合わせの上、7月31日（土）開催の平成22年度関西大学博修士会総会・学術講演会ならびに懇親会には是非ともご出席下さいますよう心よりお待ち申し上げております。

平成22年度 総会・講演会・懇親会のご案内

日 時：平成22年7月31日(土) 13:00より受付開始
場 所：関西大学高槻ミューズキャンパス
内 容：
第1部：総 会
 13:30～15:00 マルチミーティングルーム（2階）
第2部：学術講演会
 15:00～16:00 マルチミーティングルーム（2階）
 演題「防災・減災について！」（仮題）
 講師：関西大学大学院社会安全研究科長
 河田 恵昭 教授
 講演会終了後、ミューズキャンパス見学（約30分）
第3部：懇 親 会
 16:30～18:00 マルチミーティングルーム（2階）
総会・懇親会参加者：会員と会員の紹介者に限定（事前申込制：郵便振替とする）
 学術講演会聴講は無料、非会員の参加も可（要事前申込）
懇親会会費：会員と会員の紹介者は5,000円
 院生会員は1,000円（要事前申込）
お願ひ：ご出席の方は、7月20日（火）までに、事前に郵便振替でお申し込み下さい。

- 郵便振替 00900-2-68733
関西大学博修士会
通信欄に「総会費」などご記入下さい。
博修士会総務部
- 問合せ先 TEL
06-6368-1111
(内線6537)
FAX
06-6388-8785
総務部 中原 宛
e-mail
nakahara@kansai-u.ac.jp
■はがき
〒564-8680 吹田市山手町3-3-35
関西大学システム理工学部
中原 氣付 博修士会

社会安全学部長
社会安全研究科長
河田 恵昭先生

アクセス：
 JR京都線で「高槻」駅下車、徒歩約10分
 阪急京都線で「高槻市」駅下車、徒歩約15分
 詳しくはHPをご確認ください。
<http://www.kansai-u.ac.jp/index.html>

会員からのメッセージ

「台湾での教育経験」



愛知大学
土屋 仁志 (平18博商)

アジアの流通業の国際化を研究テーマとしており、その関係で約8年間、台湾の高雄市にある大学で教鞭をとる機会をいただきました。きっかけは2000年の11月に日本で開催されたアジア流通フォーラムにて、國立高雄第一科技大学のマーケティング学科の先生方と論文交換したことでした。3日間あったフォーラムの初日に知り合い、2日目に論文を交換し、最終日に「台湾で教えてみないか?」というお誘いを受けました。2週間後に台湾で開かれた流通学会で報告し、その足で就職を決め、翌年の2月から専任講師として赴任しました。

当初は、つたない中国語で学生たちには迷惑をかけたと思います。しかし、それでもなお寛容に受入れていただきました。当時、学科長であった朱國光先生はよく「学生が講義を理解できないのは土屋の語学力不足からくるものではなく、単に君たち学生の理解力不足からくるものだ」と公言しており、「ものすごいことを平気で言うものだなあ」と思いつつ、心理的にはおおいに助けていただきました。また学生は学生で非常に勤勉で、私の「外国人の変な発音」を楽しみながら、一言一言を拾って理解してくれました。「先生の発音は悪いので一生懸命聞かないと理解できません。なので、授業はいつも集中して聞いています」とのことでした。寛大な台湾の同僚や学生たちに支えられて、わたしの仕事が成り立っていました。

言葉が100%伝わらないという環境のなかで、パワーポイントという新たなツールには本当に助けられました。スライド投影により、文字はもちろん画像を多く使う授業を展開し、なるべく言葉の不足を感じさせないように努力しました。おかげでパワーポイントの使用にも慣れ、8年間

で膨大な講義のデータベースが出来上がりました。現在は、その日本語化につとめ、データを更新して授業で使用しています。

台湾での講義は1コマ150分（50分×3）を18週行います。日本と比べるとはるかに多い時間を学生たちと過ごすことになります。また、少人数制も台湾における大学教育の特徴のひとつです。1クラス最大でも50人、それを超える場合には教員の許可が必要となります。そのため、専門科目の講義であっても教員と学生がコミュニケーションを取りながら授業を進めることができます。学生も活発で、わからないことがあったり、興味をもつようなことがあれば講義中でもどんどん質問を投げかけてきます。こうした点では西洋的文化の側面を持ち合わせていると感じました。

一方、教師に対する高い尊敬の念をもっているといったアジアの儒教的な側面もあります。毎年、セメスターが終わる頃や「教師の日」（9月28日：孔子の誕生日）には、感謝のメッセージが書き込まれたカードがたくさん届きます。

短い人生のなか、国外で仕事をするという貴重な体験ができたことは非常に幸運なことであったと思います。寛大な台湾の同僚や学生たちには感謝しています。



國立高雄第一科技大学正門

「博士論文を書き終えて」



京都学園大学
坂本 信雄 (平22博経)

もともと中央官庁（旧経済企画庁、現内閣府）に勤務していた私は、縁あって現在の大学に転じて今年でちょうど20年になる。官庁のなかではアカデミックな世界とのつながりはあった方だが、それでも大学ほどではなかった。大学に移ったことでこれではいけないと思い、知人の薦めもあってさっそく生活経済学会に入会した。その後、日本NPO学会など4つの学会に所属しているが、マクロからミクロまで、分野も金融、社会保障、財政などを含む生活経済学会は、多分に異業種的な雰囲気？でもあり、この学会が主催する研究会への参加や発表の機会（4回）がほかの学会よりも多くなった。そのことで、関西大学では社会保障論の一圓光彌先生、財政論の林宏昭先生の知遇を得ることになり、その後の自分の発表に際して、厳しいコメントや指導を受ける機会となった。

しかし、研究への道はけっして平坦ではなかった。大学生活もしだいに雑用が多くなり、なかなかじっくり勉強の機会を持つことが難しくなるなかで、10年前になるがNIRA（総合研究開発機構）の客員研究員になることができた。ここではワークショップも開催されるなど、今から振り返れば、ここでまとめた「非定住型住民に対する公共財のあり方」がその後の研究テーマの下敷きになったと思っている。

その後、生活経済学会から研究助成金を得たことも、研究を進化させることになった。自治体に対するインターネットを通じるアンケートは、今日では回収率の面でも容易ではないが、助成金に基づく「非定住型住民に対する公共サービス料金の格差」の調査は当時としてはまだ先駆け的な調査手法だったといえよう。調査結果がやや異色だったこともあって、2005年9月2日付けの日

本経済新聞朝刊（地域総合版）にその概要が掲載された。

その後の研究は、これに関連して人口移動、住民参加、受益者負担、寄付などをキーワードに取りまとめたが、それらはまさにローカル・ガバナンスのあり方をトータルとして検証することにつながった。その都度、論文や学会での発表を重ねたが、それらを体系的に再構成し、著書として刊行したのが「ローカル・ガバナンスの実証分析」であり、これが博士論文のベースとなった。この本はまた2009年度の生活経済学会「推薦図書賞」の栄誉に浴すことになった。

この度、関西大学より博士号を授与されたことは、私にとって終生、忘れられないことであり、今後は同窓の皆様と同じように、あたかも母校の一員のようにその末席をけがすことができればまさに望外の幸運である。

「修士論文を書き終えて」



山田 嘉徳 (平22心理)

はじめに、修士論文でまとめた私の研究を簡単に紹介したいと思います。研究テーマは、大学におけるゼミでの学生の学びの変化過程について、個人、集団、個人と集団の相互作用といった多様なレベルで検討することを目的とするものでした。具体的には、観察やインタビューによって、卒論作成活動に取り組む学生たちがいかなる意識や行動を持ち合わせてゼミに参加するかについて、指導教員、ゼミ仲間、ゼミ環境・制度、ゼミ全体の学びの雰囲気といった多様な人的・物的リソースとの関係に着目しながら、学びのプロセスを明らかにするものでした。

研究の結果、とてもユニークな発見がありました。それは、学生たちの学びの動機づけには、学

message

びの「正統性」の認知が重要な意味をもつことが示されたということです。すなわち、よく学んでいる学生には、自身の学びの意味・価値への気付きがみられ、早くから自らの目標に照らして考えて行動し、積極的に自らの活動を多様な経験に関連づけると同時に、自信を持って意欲的に取り組む特徴が見出せることができました。

しかし、こうした価値ある知見を見出すことができたと思われる半面、修士論文の作成には、苦労、戸惑い、難しさが常に付きまとっていたことが思い出されます。まず、修士論文の研究計画時には困難や葛藤の連続でした。特に、学術的意義をいかにアピールするかという点で、専門分野における自身の研究の確かな位置づけと独自性・独創性の主張とのバランスの取り方に大きな葛藤を覚えました。こうした葛藤は、終始続き、特に、自分が提起した知見と先行する諸知見との統合が最も苦しい作業でした。さらに、修士論文の作成には、こうした研究面での葛藤ばかりがあるだけではありません。研究遂行上の日常生活面での経済的・精神的負担もありました。経済的な側面では、学生支援に関わるTAとして勤務し、アルバイトと研究を上手くやり繕りしながら生活してい

ました。精神的な側面では、大学院2年次の夏の盛りに気胸を患い、短期間ではありましたが入院生活を強いられるなど、研究が一向に進まず落ち込むこともしばしばありました。

こうした経験がありながら、どうにか無事修士論文を完成させることができましたのは、本当に多くの方々の支援のおかげであると感じています。苦境時には、指導教員、同学年の院生、先輩、後輩、そして、家族の支えと励ましにいつも助けられていたことが思い出されます。また、関西大学という学舎が、私の研究への探求心を掻き立てる場であったと同時に、心の安らぎを提供する居場所であったことが、研究を諦めずに続けることができた欠かせない要因であったと感じています。

現在、私は博士号の取得を目指し、関西大学博士課程後期課程に進学し、大学教員になる夢を持ち、日々努力を続けています。いつの日か私に多くのサポートと豊かな学びの場を提供していただいた皆様と関西大学に恩返しをさせていただきたいと思っております。最後になりましたが、ここに改めて、お世話になりました皆様に深く感謝申し上げます。素晴らしい経験をさせていただきました。本当にどうもありがとうございました。

特別協力金納入者名簿（五十音順、敬称略）

朝森 要	天井 一夫	網本 浩幸	有福 健	飯田 幸雄	石崎 清博
磯野喜美子	板谷 秀子	亥野 疊	今中 利昭	今村 隆	岩井 治夫
上田 洋征	江原 静	大前 英世	緒方 正則	岡本 哲和	奥西 嘉一
鬼丸 貞久	小幡 斎	笠原 俊幸	加藤 正利	岸井 貞男	北川 勝彦
北川 均	北嶋 弘一	北村 英子	来山 武	木村 昌司	熊田喜三男
児玉 憲夫	後藤 安子	小畠 広夫	小林 和代	小松陽一郎	斎坂紀八郎
竿田 翔夫	佐々木保幸	笹倉 淳史	笹邊 将甫	澤 熱	鹿田 幸治
神保 敏明	杉本 隆史	高橋 保博	辰巳 浅嗣	谷丸 幸子	寺内俊太郎
東條 智恵	徳矢 典子	豊永 彰	内藤 征一	中浦 茂雄	中下 寛治
中橋 久史	長瀬 治男	中原 住雄	中村 俊一	西川 俊輔	西座 新二
西崎 義男	西田 一郎	野元 宏兵	羽間 弘	花川 栄一	羽生 和子
濱田 晃之	東村 高良	日野上輝夫	平野 裕	福田 憲治	藤井 栄喜
藤井 収	藤井 健夫	藤井 英志	藤井 昭三	藤岡 真衣	藤本 周一
古橋 秀章	細江 正彦	前田 敏文	前田 泰成	松田 充弘	松本 始
宮内 勉	宮岡 俊	宮下 文彬	明神 信夫	連 道夫	森下 明
安田 三治	山内 孝彦	山本 善章	山元 哲朗	横田 伸敬	

博修士会からのお願い

特別協力金のご協力をいただきました会員の皆様に厚くお礼申し上げます。会の財政が逼迫しておりますので、本年度も引き続きご協力をお願いいたします。1口1,000円、できれば2口以上お願いいたします。また終身会費15,000円を未納の方は、納入をお願いいたします。

郵便振替 00900-2-68733 関西大学博修士会

大学院ニュース

Graduate School News



文学研究科文化交渉学専攻

～グローバルCOEプログラムの人材育成拠点～

文学部教授・グローバルCOEプログラムサブリーダー **藤田 高夫**

文学研究科文化交渉学専攻は、従来の総合人文学専攻と並ぶ専攻として平成20年4月に開設されました。この専攻は、平成19年度に本学が申請し採択された文部科学省グローバルCOEプログラム「東アジア文化交渉学の教育研究拠点形成」における人材育成の受け皿として設立されたものです。前期課程と後期課程を同時に開設しましたので、本年3月に最初の修士修了者10名が修士（文化交渉学）の学位を手にしました。来年3月には最初の課程博士（文化交渉学）の学位が授与される見込みです。

グローバルCOEプログラムとは、わが国の大学院の教育研究機能を充実・強化し、国際的に卓越した教育研究拠点の形成をはかるための文部科学省の大型支援事業です。そこでは世界的水準の研究基盤の形成に加え、世界をリードする創造的な人材育成が強く求められています。したがって、大院とくに後期課程における人材育成の成否が、プログラム遂行のうえで極めて大きな意味を持ちます。申請に際して、本学では従来の専攻・専修から大院生を寄せ集めるようなプログラムではなく、拠点形成の目的に合致した新専攻の設置を構想しました。その進取性と意欲が評価されたことが、厳しい審査を通過しての採択につながったのだと考えています。

本学のグローバルCOEプログラムが提唱する文化交渉学とは、国家や民族という分析単位を超えた東アジアというまとまりを想定し、その内部での文化生成、伝播、接触、変容に注目しつつ、トータルな文化交渉のあり方を解明しようとする学問です。本学には日中交渉史研究を筆頭にアジア研究の豊かな蓄積がありますが、文化交渉学

は、その成果を踏まえながら一層高次の学問研究へと飛躍するために構想された新しい分野です。

文化交渉学専攻の大学院生には、従来の国別・学問分野別の固定された枠組を超えて、東アジア世界を多対多関係の織りなす文化的複合体として捉える視座が求められます。また多言語（英語と2アジア言語）による学術発信が可能となるような言語能力の習得も課せられています。さらにフィールドワークの技法を身につけるためのプロジェクトや第一線の海外研究者の仕事を紹介するインターネット授業など、特色あるカリキュラムが動いています。詳細はホームページをご覧ください (<http://www.icis.kansai-u.ac.jp/index.html> 関西大学のトップページからも入れます)。

このカリキュラムをこなす院生諸君には大変なハードワークが求められますが、彼らには学資も含めてさまざまな経済的支援策が用意されており、アルバイトなどをせずに研究に専念できる環境が整えられています。これはグローバルCOEプログラムだからこそ可能な支援策です。また研究分野の特色から、留学生が大きな比重を占めており、現在は中国・台湾・韓国・ベトナム・ネパールから前期・後期課程あわせて29名が在籍しています。

この文化交渉学専攻が平成22年度に完成年度を迎えるのを承けて、新研究科「東アジア文化研究科」を文学研究科から独立させる形で開設いたします。文部科学省への設置届出を終えて、現在学生募集を開始しております。関西大学の特色ある学問研究を担う新組織として、みなさまのご支援をお願い申し上げます。

総会議案書

〈第1号議案〉

平成21年度事業報告

平成21年4月 1日から
平成22年3月31日まで

[1] 総会に関する事項

開催日時：平成21年8月1日（土）14:00～
開催場所：関西大学父母会館2階会議室
来賓：芝井 敬司 副学長
田中 義昭 校友会副会長
奥田 恵造 校友会事務局課長
仁井ひろみ 女子秀麗会 会長

◇第1部 総会（議事）

- (1) 平成20年度事業報告
- (2) 平成20年度収支決算および監査報告
- (3) 平成21年度一般会計収支予算案

◇第2部 学術講演会：関西大学父母会館2階会議室

演題：「バイオラバーとは！」
—高速水着から医療素材の開発まで—
講師：山本化学工業(株) 代表取締役 山本富造 氏

◇第3部 懇親会

関西大学100周年記念会館内「桃源」

[2] 役員会に関する事項

◇理事会

- 平成21年4月3日（金）17:00～
関西大学100周年記念会館内「桃源」（総会・学術講演会・会報発行計画・決算・予算の件、その他）

◇常任理事会

- 平成22年3月1日（月）17:00～
関西大学100周年記念会館内「桃源」
(修士記授与式、入会案内・入会受付手続き・記念写真撮影に関する件、22年度総会・学術講演会・会報発行計画等)

◇その他

- (1) 平成21年4月5日（日）
 - 2009スプリングフェスティバル（千里山キャンパス）に参加
- (2) 平成21年6月1日（月）
 - 「博修士会会報」を編集・発行（広報部）
- (3) 平成21年6月13日（土）
 - 校友会第93回定時代議員会（関西大学100周年記念会館）に出席（会長コーナー・涉外部）
- (4) 平成21年7月11日（土）
 - 平成21年度校友会全国組織代表者会議（関西大学100周年記念会館）に出席（会長コーナー）
- (5) 平成21年10月18日（日）
 - 平成21年度校友会総会（関西大学BIGホール100）に出席（全部署）
- (6) 平成22年1月15日（金）
 - 校友会新年互礼会（新阪急ホテル）に出席（会長コーナー）
- (7) 平成22年3月23日（火）
 - 学位記及び博士課程後期課程単位修得証書：授与式（関西大学BIGホール100）に出席（会長コーナー）
 - 新会員の入会受付（総務部・涉外部・財務部）
 - 記念写真撮影（涉外部・事業部）
- (8) 平成22年3月27日（土）
 - 校友会第94回定時代議員会（関西大学100周年記念会館）に出席（会長コーナー・総務部）

〈第2号議案〉

平成21年度収支決算報告書

一般会計収支決算書

自 平成21年4月 1日
至 平成22年3月 31日

(収入の部)

(単位：円)

項目	予算額	実行額	差引差額
経常収入	1,371,500	1,080,354	291,146
1. 会費収入	660,000	354,000	306,000
① 正会員入会金収入	60,000	30,000	30,000
② 院生会員入会金収入	600,000	324,000	276,000
2. 事業収入	360,000	202,000	158,000
① 総会会費収入	300,000	172,000	128,000
② 広告料収入	60,000	30,000	30,000
3. 雑収入等	351,500	524,354	△ 172,854
① 雜収入	50,000	96,000	△ 46,000
② 特別協力金収入	300,000	428,000	△ 128,000
③ 受取利息	1,500	354	1,146
前期繰越金	1,409,770	1,409,770	0
合計	2,781,270	2,490,124	291,146

(支出の部)

(単位：円)

項目	予算額	実行額	差引差額
経常支出	1,115,000	740,151	374,849
1. 一般管理費	245,000	186,645	58,355
① 通信費	100,000	83,415	16,585
② 事務用消耗品費	100,000	79,970	20,030
③ 支払手数料	15,000	12,860	2,140
④ 雑費	30,000	10,400	19,600
2. 会議費	400,000	216,835	183,165
① 総会費	350,000	200,635	149,365
② 諸会議費	50,000	16,200	33,800
3. 事業費	470,000	336,671	133,329
① 印刷費	350,000	333,971	16,029
② 修士記授与記念写真費	80,000	2,700	77,300
③ 記念品費	40,000	0	40,000
予備支出	50,000	5,000	45,000
予備費	50,000	5,000	45,000
当期支出合計	1,165,000	745,151	419,849
次期繰越金	1,616,270	1,744,973	△ 128,703
合計	2,781,270	2,490,124	291,146

* 予備費の支出は、役員会の承認を得たものである。

総会議案書

〈第3号議案〉

特別会計収支決算書

奨学金特別基金

自 平成21年4月 1日

至 平成22年3月31日

(単位:円)

収入の部	金額	支出の部	金額
前期繰越金	1,203,295	次期繰越金	1,203,680
受取利息	385		
合計	1,203,680	合計	1,203,680

名簿特別勘定

自 平成21年4月 1日

至 平成22年3月31日

(単位:円)

収入の部	金額	支出の部	金額
前期繰越金	852,391	次期繰越金	852,664
一般会計より入金	0		
受取利息	273		
合計	852,664	合計	852,664

財産目録

平成22年3月31日現在

(単位:円)

科目	摘要	金額
普通預金	一般会計用(りそな/難波)	362,338
振替貯金	一般会計用(ゆうちょ/大阪事務センター)	1,183,270
通常貯金	一般会計用(ゆうちょ/大阪事務センター)	199,365
小計		1,744,973
普通預金	特別会計 奨学金特別基金(りそな/難波)	1,203,680
普通預金	特別会計 名簿特別勘定(りそな/難波)	852,664
合計		3,801,317

(負債・正味財産の部)

(単位:円)

科目	摘要	金額
正味財産	次期繰越金合計	3,801,317
合計		3,801,317

監査報告書

関西大学博修士会

会長 北嶋 弘一殿

私たちは、平成21年4月1日から平成22年3月31日に至る一般会計収支決算書、奨学金特別基金および名簿特別勘定の特別会計収支決算書、ならびに財産目録について監査を実施致しました。

その結果、上記決算書類は、適正なものであることを認めます。
平成22年6月3日

監事 澤 駿
監事 竹田嗣夫
監事 水野一郎

平成22年度一般会計収支予算書(案)

自 平成22年4月 1日

至 平成23年3月31日

(収入の部)

(単位:円)

項目	22年度予算	摘要
経常収入	1,351,000	
1. 会費収入	660,000	
① 正会員 ② 入会金収入	60,000	正会員入会見込 15,000円×4人
院生会員 ② 入会金収入	600,000	院生会員入会見込 12,000円×50人
2. 事業収入	280,000	
① 総会会費収入	250,000	総会出席見込 5,000円×50人
② 広告料収入	30,000	広告掲載見込 10,000円×3件
3. 雑収入等	411,000	
① 雜収入	60,000	記念写真代他
② 特別協力金収入	350,000	
③ 受取利息	1,000	預金利息等
前期繰越金	1,744,973	
合計	3,095,973	

(支出の部)

(単位:円)

項目	22年度予算	摘要
経常支出	995,000	
1. 一般管理費	245,000	
① 通信費	100,000	会報・総会案内発送費
② 事務用消耗品費	100,000	
③ 支払手数料	15,000	振込・振替送金手数料
④ 雜費	30,000	
2. 会議費	300,000	
① 総会費	250,000	総会会場費・懇親会費
② 諸会議費	50,000	
3. 事業費	450,000	
① 印刷費	350,000	会報・総会案内等印刷費
② 修士記授与費	50,000	
③ 記念品費	50,000	修士記授与時贈呈記念品代 (追加分) 2,500円×20個
予備支出	30,000	
予備費	30,000	
当期支出合計	1,025,000	
次期繰越金	2,070,973	
合計	3,095,973	

* 予備費の支出は、役員会の承認を得たものとする。

〈第4号議案〉

役員改選

〈第5号議案〉

その他



山本富造氏が話題の バイオ ラバーについて講演

第46回博修士会総会は関西大学校友・父母会館で、芝井敬司副学長、田中義昭校友会副会長、仁井ひろみ女子秀麗会会長を来賓に迎え、8月1日(土) 14時から開催された。

総会は中原住雄総務部長の司会により、宮下文彬会長代理の開会の辞に続き、黙祷と学歌斎唱で始まった。北嶋弘一博修士会長が総会議長となり、平成20年度事業について、中原総務部長の事業報告、笹倉淳史財務部長の収支決算報告、澤勲監事の監査報告の後、全員一致で承認した。また、平成21年度予算(案)も全員で承認した。

続く学術講演会では、山本化学工業(株)の山本富造氏は「バイオラバーとは一競泳から医療素材の開発まで」と題して、高速水着で注目を集める素材開発競争の裏話をはじめ、医療などへの応用の可能性について講演をした。高速水着は、撥水性から親水性へと、魚を参考に発想の転換が大切であるとのお話に一同大いに聞き入った。場所を100周年記念会館の桃源(紫紺)に移して行われた懇親会では、早速バイオラバーコースターで聞き酒するなど、参加者一同は和やかな宴を過ごした。

(博修士会広報部)



山本富造氏の講演



720名の新修士誕生

平成21年度関西大学大学院学位(修士・専門職)記授与式が、3月23日(火) 10時から千里山キャンパスのBIGホール100で行われた。桜の咲き始めた当日は、小雨模様であったが、修了生とそのご家族の皆様で会場は、満員であった。

11研究科720名の修了者に対して楠見晴重学長は、大学院での貴重な体験は、人生において大きな役割を演じてくれるであろうと述べるとともに、常に研鑽を怠ることなく、高度な知識を得て、社会に対する貢献を期待すると語られた。とりわけ、グローバル化する世界において国際的な貢献を期待する。近年、日本と世界の動きは急速であり、これまでのモデルが通用しないような状況が目の前に迫っている。世界は、混沌としているが、「自助自立の精神」を失うことなく、自らの学知を財産として生かし、多様な展開をみせている世界の諸地域に目を向けて、「弱者へのいたわりの精神」もまた、失うことなく、世界の平和と人類の住みよい環境を築くために貢献することを期待する、との力強いメッセージをこめた式辞であった。



新博士の学位授与式

修了生総代として答辭を読んだ心理学研究科の山田嘉徳さんは、学長の式辞に謝意を表するとともに、先輩、学友、家族などへの感謝の気持ちを述べ、大学院で得た高度な専門知識を生かして社会に貢献できるよう今後も精進するとの決意を力強く表明した。

同日、午後2時から学位(博士)の授与式が行われ、新博士29名が誕生した。

(博修士会 広報部)

お知らせ!

ホームページも見て下さい！

<http://www2.ocn.ne.jp/~kandaimd/>

2010年号

発行人 北嶋 弘一 / 編集人 北川 勝彦
発行所 関西大学博修士会
〒564-8680 吹田市山手町3-3-35 関西大学大学院内